

## 生活文化局長の海外出張について

### 1 出張者・出張先

生活文化局長 古屋 留美  
パリ（フランス共和国）、ローマ（イタリア共和国）

### 2 出張日程

令和8年2月3日（火）から2月7日（土）まで（5日間）

### 3 出張目的

パリ及びローマにおいて、世界遺産をはじめとする歴史文化資産が、都市文化戦略や都市ブランド形成の中でどのように位置付けられ、継承・発信されているかを把握する。

現地では、歴史的環境と現代都市機能が共存する空間構成、文化施設や公共空間における資産活用の手法、行政の関与の在り方等について、関連施設の視察や情報収集を通じて調査し、今後の東京における文化政策及び江戸文化資産の活用・発信施策の検討に資する知見を得る。

については、これらを目的として、職員を現地へ派遣する。

### 4 経費

5,537,904 円

### 5 同行者数

3名

### 6 出張の日程

2月3日（火）

移動日

2月4日（水）

(1) パリ市副市長面会

(2) 芸術創作アトリエ「Atelier de Création A92」視察

(3) 世界遺産「パリのセーヌ河岸」視察

2月5日（木）

(1) ローマ市長面会

(2) ローマ文化遺産監督局面会

(3) 世界遺産「ローマ歴史地区」視察

2月6日（金）

(1) ローマ日本文化会館面会

(2) 世界遺産「ローマ歴史地区」視察

2月7日（土）

移動日

## 7 報告事項

- パリ市及びローマ市において、遺産関係の責任者との意見交換を通じて、遺産保護方針や将来世代への継承、デジタル活用など、世界遺産登録数の上位国における施策についての知見を得たほか、江戸文化の発信の取組について説明し、江戸の認知向上に向けた交流につながる関係構築を行った。
- パリ市での芸術創作現場の視察やローマ市との意見交換により、障害のある方の創作活動への支援や歴史遺産の活用など、今後の文化振興施策に向けた知見を得た。
- 両都市において、世界遺産の構成資産に関する、建築様式や修復・改修状況、周辺環境をテーマとした視察を行い、江戸由来の建築物との比較や保護の現状などについて確認を行った。